

ひとを育てる活動

クリスマス寄付ありがとう！今年もご支援よろしく！

— SCMSIガンダム副学長挨拶とその対応 —

前号で報告のように、長きにわたった学長職を退いたガンダム副学長から1月9日付でメールが届きました。

「いただいた寄付は十分ではなかったけれど、やりくりして、子どもたちだけでなく職員もクリスマスを楽しみました！」という正直な感謝の言葉に続き、SCMSIは今後も支援が必要であり、若い世代にもアピールして、支援の継続をお願いしますという要請がありました。

SCMSI運営における私たちの支援比率は、当団体がJOFPAの活動を引き継いだ2013年度時点ですでに数%と低く、その後のカレッジやハイスクールに対する政府助成も始まり、会員の皆様には、運営面の支援はほぼ不要とお伝えしてきました。しかし、ウクライナ戦争他に起因する世界的物資不足、電気代他諸物価値上がりは、ハイスクールやカレッジ生増加で大所帯となったSCM校でも運営経費の急増など影響は大きいようです。

窮状は理解できるものの、昨今のSCMSI報告は、里子や卒業式写真等に限定されているため、今後は運営面等、私たちの支援成果にも言及した報告を依頼し、今しばらく、チボリ支援会員のご協力をSCM校運営支援につなげたいと事務局としての意向を伝えました。



ラヒット校のクリスマス会(左)、スタッフのクリスマス会(右)の様子

先住民族学校のクリスマスと近況報告

ティヌオス先住民族学校では12月14日にクリスマスを楽しんだそうです。アニータ先生からは「HANDSからの送金で子どもたちにプレゼントを買い、食事の用意にも充てます。私も子どもたちも幸せです」と感謝のメールが届きました。新学期は1月4日に始まり、子どもたちは喜んで学校に戻ってきたそうです。学校で学んだ読み書きや計算が身につけていることを父母はとても喜んでいとの報告もありました。

常に地域のために行動をし続けるアニータ先生。来年度も公立の学校が遠くて通えない子どもたちの入学希望が増えることを予測し、教室増設のための支援の依頼がありました。一方、こちらの運営・財政状況についても理解をしているようで、「最も重要なのは教師の賃金と子どもたちの給食への支援です。ハンディクラフトや家畜の収入が少しは役に立つかもしれません」とのコメントもありました。

自立までにはまだ時間がかかりそうですが、支援と自立のバランスを見計らいながら、また他団体との協働事業と調整しながら、HANDSとしてできることを考えていきたいと思えます。

たくさんのクリスマスプレゼントをありがとう！

— CMIPからの新年の挨拶とクリスマスの報告 —

窓口のチャリスより1月12日に新年の挨拶とクリスマスのお礼のコメントが届きました。「カレッジ奨学生へはHANDSからのクリスマスプレゼントを渡し、クリスマスはそれぞれの家族と過ごしました。ハイスクールと小学生のクリスマス会はまだのようでチェルソ神父が若い司祭の集まりから戻る来週に行く予定です。プレゼントをありがとう」。

→ 左からカレッジ奨学生のルイス、ジョンマーク、ナンシー



← HANDSからのプレゼントセット(お菓子、マスク、水筒、靴、タオル、歯磨き粉、歯ブラシ、消毒用アルコール、折り畳み傘)。小学生からカレッジ生まで計27名の奨学生が受領。

「HANDSカレッジ奨学生同窓会」は次年度再トライ

昨秋11月初め「卒業生に呼びかけて、一緒にコミュニティ支援活動などを広げたい！」とボニファシオから聞いていた12月16日開催予定の同窓会。公立校教師のメリーアン他3名は、まだ校務が残っていて参加は難しいという返事があったということでした。また前号で紹介のクリストファー他海外就労組も16日までの帰国は難しいということでした。一方、アルキカン村役場の職員アーリーンからは、地域のピラーンの住民の組織化のノウハウを知りたいと前向きな返信があったようです。

毎回、アグロフォレストリーやヤギ飼育の活動報告をくれるボニファシオ設立の住民組合TBAは、ボニファシオ以外に教育を受けた組合員の参加はなく、決して順調な運営とはいえないようです。しかし、行政が届かないきめ細かな住民支援のツールとして、試行錯誤ではあってもその活動に期待したいと思っています。

ボニファシオ自身は、昨年9月のコロナダルの市の公務員試験に失敗、未だ契約スタッフ待遇ですが、先住民族の組織化という任務やコロナダル市による公的医療支援を貧困世帯につなげる役割を担っています。

仕事で同窓会に出られないという元奨学生の事情は、私たち支援した側から言えば、それぞれが学んだ専門を生かした定職に就いていて多忙と理解でき、「同窓会お流れ」はそれなりに評価したいと思いました。ボニファシオも次年度公務員試験に再チャレンジの予定とのこと。安定した収入、地位を得て一層、コロナダル市内では少数派であるピラーン住民の組織化やアグロフォレストリー推進等に取り組んでほしいと願っています。